

道東ブロックトレセンU-10 in 網走交流試合 報告書

釧路トレセンU-10スタッフ

はじめに

3月5～6日に道東ブロックトレセン in 網走がオホーツクドームで行われました。24名のメンバーを2チームに分けて試合を行い、冬期U-10トレセンとして取り組んできたことが道東の他地区の選手を相手にどの程度やれるかを図る場となりました。

試合は8人制、10分ハーフで行われました。

・参加チーム

釧路A・B、帯広A・B、網走A・B、根室（7チーム）

・参加選手

釧路A 11名

小野寺 辰貴（愛国） 福島 龍乃介（厚岸） 嶋 耕太郎（釧路南） 伊藤 大貴、小川 一熙、畠山 椋（城・清・武）
麻里 友哉、菅原 瞬（遠矢） 小野 大成、川内 大輝、沼澤 秀斗（ドリーム）

*石川 勇大（城・清・武）が風邪のため不参加

釧路B 12名

風呂谷 晃平（コンバット） 今野 祥太朗、百瀬 瑞季（昭和） 田畑 翔希、佐藤 雄大、吉田 柚季（城・清・武）
小林 陸功（朝陽） 篠原 稜（T.WEST） 館山 透磨（富原） 石川 蒼、菅原 国照、日向 拓海（ドリーム）

試合結果

釧路A

釧路B

1日目

○7-2 網走B
○6-3 帯広A
●0-5 網走A
○4-2 網走B

●0-4 網走A
●1-3 帯広B
●2-3 根室

2日目

●2-3 帯広B
○3-0 根室
○4-2 帯広A

○4-0 根室
△1-1 帯広A
○4-1 網走B
●1-4 帯広A

ゲームにおける成果と課題

成果

- ・ 1年間を通じて行ってきたパス&コントロールに一定の成果が見られた。
- ・ まだ少ないが、やみくもに攻めるのではなく、パスで相手を崩して得点を狙う意識が見られた。
- ・ ゴール前での突破からミドルシュートで得点を奪うことができた。
- ・ インターセプトや積極的な守備からボールを奪うことができた。

課題

- ・ ファーストタッチの質が低かった。
- ・ 観ることをしないためにボールを失っていた。
- ・ プレーの優先順位が整理されていないため、シュートできる場面でパスをしていた。
- ・ ポジショニングの悪さから失点する場面があった。
- ・ ボールを保持している時の状況判断が悪かった。

特に目についた課題

ボールを奪う

少しずつ改善されつつあるが、しっかりと「ボールを奪いきる」意識が低い。中にはディフェンス＝後ろに下がるという意識の選手もまだ目にする。ただ追いかけるだけでなく、ボールを奪うための守備を徹底させたい。そのためにはステップワークやポジショニングも必要になってくる。試合の中ではオン・オフ共に相手選手との距離が遠すぎるためにボールを奪えない場面が目についた。切り返されても離されない、常にインターセプトが狙える相手との距離などをトレーニングの中で徹底させていきたい。

ポゼッション（簡単にボールを失わない）

冬季トレセンの中で特に取り組んできた課題である。幅と厚みをもって攻撃を仕掛けようとする意識が多く見受けられ選手の成長を感じることができた。しかし、試合中常に変わる状況に応じたポジショニングができず、また相手に狙われている場所にパスをしてボールを失ったり、パスをつなごうとするあまりシュートチャンスにもパスしてしまう場面も多くあった。攻撃の優先順位を意識した中でのポゼッションができるよう繰り返しトレーニングしていきたい。

かかわり続ける

ボール保持者に多くの選択肢を与えるためにも、ボールを持っていない選手がパスコースにならなくてはならないが、そのサポートが少なかった。そのサポートの少なさはせつかく奪ったボールをまた奪い返されるというプレーにも表れた。パスして終わり、の選手も多い。ボール保持者の選択肢が少ないためプレーが限定され、ボールを失う場面が多くあった。試合の中において常にいつ、どこにかかわればいいのかをしっかりと身につけさせたい。

観る・観ておく、判断、ハイプレッシャーの中でのプレー

すべてのプレーに関わる事柄であるが、やはり普段から緩いプレッシャーの中でサッカーをしている結果であると思う。特にボールをもらう前に周りを観ておかない（ボールを受けてから周りを観る、プレーを探る）ため相手のプレッシャーをモロに受けてしまう。その結果、判断もなく厳しい局面を無理矢理にドリブ

ルで打開しようとしてボールを奪われていた。また、前を向けるのに判断せずにワンツーパスと決めつけてだしたり、フリーな味方がいるにもかかわらず観ていないためドリブルを仕掛けてボールを奪われるといったことは非常に多く見受けられた。マイボールを簡単に失わないために、常に周りを観る・観ておくことで状況を判断し、その局面で一番良いプレーの選択できるようにトレーニングの中でこれからも常に要求していきたい。ハイプレッシャーの中では、特にそのようなことが重要になってくるのは今回の試合で選手が一番理解できたのではないかと思う。

GK

U-10年代のGKの捉え方は非常に難しい問題である。トレセンとしては手での技術と同様に足下の技術も重視してきた。試合では逆サイド等周りを観ていないために狭い方にパスを出してしまい、ボールを奪われることが多くあった。特に前線がフリーにも関わらず判断せずに簡単にサイドバックの選手にパスしてしまうことが多かった。優先順位を整理させてからは前線の選手へのパスも増えてきたが、事前に観ておくことで判断してスペースを持ったフリーな選手にボールをつなげるように指導していきたい。また全体的に後ろからの声の少なさも気になりました。ボールがない時でもプレーに関り、しっかりポジションするためにもGKにもFPと同等の技術（パス&コントロール・観る・判断）を求めていきたい。

まとめ

今回の遠征で一番感じたことは、ハイプレッシャーの中で動きながら「止める・蹴る・運ぶ・観る」といったスキルの精度をさらに高めなければ上では通用しないということでした。やや格下のチームとのゲームではできることが、厳しいプレッシャーの中でのスキル発揮ができず、普段から厳しいプレッシャーの中でのトレーニングや市内のゲームのレベルを上げる必要があると感じました。特に相手の厳しいプレッシャーを受けた時、無理にドリブルを仕掛け偶然にも何回かは突破できていたが、はたしてそれが良いプレー（良い判断）だろうか？市内の大会でもこのようなプレーはよく見かけるが、結果オーライにはしていないだろうか？もちろんドリブルが悪いプレーではないが、状況によってドリブル以外のプレーを選手自身に判断させるような指導を釧路地区の指導者全体で展開していき、選手の全体的なレベルアップが計れば、と思いました。

課題もたくさん出ましたが、選手の良い面も沢山見られた遠征でした。選手には色々なポジションを経験してもらい、普段やったことのないポジションに苦戦して敗れた試合もありましたが、初日より2日目のサッカーは格段に良くなったというのが帯同したスタッフでの一致した意見でした。初日夜のミーティングではトレセン選手としての心構えや食事の大切さ、またサッカーのプレーの話として「なぜ観ることが必要なのか」「なぜかわり続けるのか」等のサッカーの理解を深める具体的な話をしました。やや難しい話でしたが選手は目の色を変えて聞いてくれましたし、その成果は2日目のプレーにしっかりと表れていました。

今回の遠征での収穫を今後のトレセンに生かしていきたいと思います。また、選手を送り出していただいた各チームのスタッフ・父母に感謝申し上げます。